

# 令和元年度 ひとよし花まる学園大学講座

開講式: 10月5日(土) 午前9時45分 会場: 中小企業大学校人吉校大教室

(1) 開講式終了後、午前10時から第1回講義を始めます。

(2) 講義はすべて中小企業大学校人吉校でおこないます。

講座1: 大教室 / 講座2: 中教室 (講座1・2とも各土曜日、午前10時～12時)

講座1 (募集定員50人)	と ことん 歴 史 学			
	回	日程	テーマ	講師
百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録により注目されている古墳時代。人吉球磨地域にも古墳時代の様々な歴史が残されていることをご存知ですか。本講座では、古墳時代の人吉球磨について専門講師による講座を受講することで、歴史の具体的な見方について学び、今後の地域の魅力を発見するための基礎を学べる講座とします。	1	10/5	古墳時代における倭王権と人吉球磨	杉井 健氏 熊本大学文学部准教授
	2	10/12	球磨の原史世界に魅せられし人々の話	木崎 康弘氏 八洲開発(株) 木崎文化財研究室長
	3	10/19	熊襲・隼人の原像～邪馬台国と畿内王権との関係～	北郷 泰道氏 元・宮崎県埋蔵文化財センター所長
	4	10/26	弥生時代終末から古墳時代の人吉球磨における社会構造	手柴 友美子氏 人吉市教育委員会学芸員

講座2 (募集定員40人)	「 現 代 」 を 読 み 解 く			
	回	日程	テーマ	講師
日常的に外国からの情報、来訪者、居住者に接する機会が増えており、「外国」と「外国人」についての理解を深めることが益々重要になっています。この社会の変化に対応するため、外国の文化・社会や言葉など外国人に関する様々な事柄について、わかりやすく解説します。外国語の読み書きや会話に自信がなくても、具体的な事例により楽しく学べる講座です。	1	10/5	出川イングリッシュはやバイ!	米岡 ジュリ氏 熊本学園大学外国語学部教授
	2	10/12	韓国の食と農—風土の視点から	土井 浩嗣氏 熊本学園大学外国語学部准教授
	3	10/19	文化とホスピタリティ: 西欧・アジア、そして日本	萩原 修子氏 熊本学園大学商学部教授
	4	10/26	異文化理解のマクロ的視点とミクロ的視点	佐藤 勇治氏 熊本学園大学外国語学部教授

☆申込方法 : 市社会教育課にある受講申込書に記入し、提出してください。(先着順。電子メール及び電話も可能)

受講申込書は市ホームページからダウンロードすることもできます。

申込期限 9月20日(金) ※午後5時まで メールアドレス syakaikyouiku@hitoyoshi.kumamoto.jp

☆申込方法 : 市社会教育課生涯学習係 〒868-8601 人吉市下城本町1578-1 電話 22-2111内線 5236/5237

☆受講料 : 2,000円

## 令和元年度 ひとよし花まる学園大学受講申込書

※希望講座に○をつけてください。

No.

	講座1	と ことん 歴 史 学	
	講座2	「 現 代 」 を 読 み 解 く	
氏 名	ふりがな	_____ 歳	
		男 / 女	
住 所	〒 _____		
電 話	自宅	— — / 携帯	— —

# ☆講 義 内 容☆

## 講座1 とことん歴史学

### 第1回 令和元年10月5日(土) 古墳時代における倭王権と人吉球磨

杉井 健 氏(熊本大学文学部准教授)

近畿地方中央部に誕生した倭王権の動向と人吉球磨の古墳時代社会が、どのような関係にあったのかを考えます。

### 第2回 令和元年10月12日(土) 球磨の原史に見せられし人々の話

木崎 康弘 氏(八洲開発株式会社取締役・木崎文化財研究室長)

坪井正五郎や濱田耕作ら日本考古学史に金字塔を打ち立てた考古学者たち。球磨の考古事象に何をイメージしたかを考えます。

### 第3回 令和元年10月19日(土) 熊襲・隼人の原像～邪馬台国と畿内王権との関係～

北郷 泰道 氏(元・宮崎県埋蔵文化財センター所長)

狗奴国から熊襲国そして日向国へ、その変遷は「日本」という古代国家形成過程そのもの。それを読み解くカギは、人吉球磨地域にある。

### 第4回 令和元年10月26日(土) 弥生時代終末から古墳時代の人吉球磨における社会構造

手柴 友美子 氏(人吉市教育委員会学芸員)

考古学の成果をもとに、弥生時代から古墳時代にかけて、人吉球磨にどのような社会変化が起きたかを考えます。

## 講座2 「現代」を読み解く

### 第1回 令和元年10月5日(土) 出川イングリッシュはヤバイ!

米岡 ジュリ 氏(熊本学園大学外国語学部教授)

日本では、「何年、英語を勉強しても、会話ができません」という言葉をよく耳にします。しかし、タレントの出川哲朗さんは、TV番組の中で、英語が得意でなくとも身振り手振りを交えながら、持ち前のコミュニケーション能力を駆使し、様々なミッションを見事にクリアします。出川さんのコツに倣い、勇気をもって英会話にチャレンジしてみませんか!?

### 第2回 令和元年10月12日(土) 韓国の食と農—風土の視点から

土井 浩嗣 氏(熊本学園大学外国語学部准教授)

九州・熊本からみると、韓国は最も近い外国ですが、その風土は大きく異なっています。そこで、風土の視点から韓国の食と農を紹介することで、日本と韓国のことばや文化の違いについて、考えていきます。

### 第3回 令和元年10月19日(土) 文化とホスピタリティ: 西欧・アジア、そして日本

萩原 修子 氏(熊本学園大学商学部教授)

日本のおもてなしは高く評価されますが、近年注目される「ホスピタリティ」とは、そもそも何でしょうか。本講義では、その語源から考察し、いろいろな文化の事例を見ていきます。そして、その本来の意味から、我々が学ぶ必要のあることは何かを再確認していききたいと思います。

### 第4回 令和元年10月26日(土) 異文化理解のマクロ的視点とミクロ的視点

佐藤 勇治 氏(熊本学園大学外国語学部教授)

本講義では、異文化世界(人と社会)を理解するためのマクロ的視点とミクロ的視点を提供します。マクロ的視点とは、例えば人種と民族、自然環境、政治思想と制度、宗教など、その国家社会を形成する骨格となるものを見る目のことを意味します。一方、ミクロ的視点とは、例えば衣食住の文化、国民の祝日の意味、国歌と国旗が象徴するもの、ことわざと価値観など、その国の人たちの身近な生活を彩るものを見る目のことを意味します。この双方の視点をもって異文化世界を見ることで、立体的な理解を得ることができます。